**地域密着型サービス運営推進会議記録（第　2　回）**

|  |  |
| --- | --- |
| 施設名 | グループホーム花乃苑 |
| 施設種類 | 認知症対応型共同生活介護 |
| 開催日時 | 令和　４年　６月　２７日　　１４時００分　～　１６時００分 |
| 会場 | グループホーム　花乃苑　羽ノ浦 |
| 参加者 | 利用者代表 | ０人 |
| 利用者家族代表 | ０人 |
| 民生員 | ０人 |
| 高齢者お世話センター | ０人 |
| 市職員 | ０人 |
| 他事業所 | ０人 |
| 有識者 | １人 |
| 事業者 | １６人 |

|  |  |
| --- | --- |
| 報告事項 | 1. 現状報告

**新型コロナウィルス感染症による感染予防のため、クループ施設の職員と有識者としてコンサルタントの方にも出席をお願いした。**２．入居者数　（R4.6/27現在）男性３名　女性１４名　　合計１７名　《要介護別》　要介護１（４名）要介護２（３名）　要介護３（８名）　　　　　　　　要介護４（１名）要介護５（１名）　３．入・退居者　(R3.4/26～R4.6/27)　　　　　　　　4/29　退居。入院中の利用者様　要介護3　女性　　　　　　　　　　　常時の医療ケアが必要となり退居となる。　　　　　　　　5/1 入居　要介護1　女性。在宅より 5/28 入居　要介護3　女性。病院より　　　　　　　　6/21　退居　要介護5　女性。特養へ転居　　　　４．活動内容　　お誕生会　園芸（花苗植え、野菜の収穫）　　　　　　　　散歩　ドライブ　　　　　　 |
| 議題① | **職員研修****「利用者様⇔職員、職員⇔職員　職員⇔上司とのコミュニケーションの図り方、職場内環境の整備について」**講師:㈱　人とくらしラボ　川畑　誠志　様（コンサル）（内　容）・利用者様とのコミュニケーションの図り方については、第一に認知症の理解を深めることが大切。・絶対に言葉だけで利用者様の行動をコントロールしようとしてはならない。虐待や身体的拘束につながる危険がある。・利用者様とのコミュニケーションが上手く図れた場合の（図れなかった場合も）の状況、内容が職員間で共有できるよう、専用のノートを作ってみてはどうか。・職員間のコミュニケーションの図り方については、知識やスキルを育成することはできるが、相手の価値観を変えることはできない。唯一変えられるのは自分だけ。・他人の悪口は自分の醜い価値観や考え方を敢えてさらけ出していることになる。・自分と考え方が違う人→排除ではなく、どうすれば受け入れられるかを考える。・世代によっても時代背景や受けてきた教育等により価値観は違う。（まとめ）職場環境が改善・発展をするためには、個々の職員の「質」ではなく、個々の職員を取り巻く「組織環境構造」である。職場環境が良好であれば、離職率の低下やサービスの質の向上へとつながっていく。 |
|  | **「身体拘束等適正化対策検討委員会」**現在、身体拘束に該当者はいません。直接的な拘束のみならず、利用者様への何気ない声かけや慢性化したケアの方法にも、身体拘束の芽が生じていないか全職員が意識し日々の業務に努めています。 |
| その他 | 令和4年6月30日をもって指定の有効期限満了のため、５月末に申請書類を提出。7/1～は短期利用が開始できるよう申請を行う。 |